



郷土史

ていね

第 84 号

平成 26 年 12 月 10 日

手稲郷土史研究会会報

第 103 回(平成 26 年 11 月 12 日)定例会の講演要旨

稲積農場のよもやま話

中央区 澤口由美子氏



昨年 3 月に父稲積敏夫が亡くなり、長兄であった稲積清も 8 月に亡くなり

現在は 82 歳の母が千坪ばかりの土地を守りながら暮らしております。

乙黒製油所さんから二十四軒手稲通りを生協に向かって来ていただくと雑木林のような佇まいの場所があり

そこが、軽川稲積農場管理事務所兼家屋のあった場所です。

その家で昭和 34 年誕生したのが私です。

軽川稲積農場は、北陸・富山県高岡市出身の稲積豊次郎が、

明治 40 年当時琴似兵村の荒蕪地 450 町歩を買入れ、防風林を造り、大正 3 年

小作 25 戸を入れ 125 町歩を耕作、ほかは自作地に開放したことに由来しています。

北海道がニシン漁で栄えた時代、日本海を往来する北前船は、

北海道沿岸で捕れたニシンを肥料に加工し、北陸などの米どころで

収穫量を増大させる為大量に運搬していたそうです。

また有名な富山の薬売りからも

「北海道に行けば、一攫千金も夢ではない…一旗揚げられる所だ」

とうまい話は尾ひれを付けられて、内地で暮らす人々の心を煽ったのかもしれませんが。

小樽と富山を往来する中で、やがて小樽に定住することを決心した豊次郎氏は、

現在の小樽オルゴール堂から南小樽駅に向かう坂道の途中

住之江町に居を構え、商才を発揮する一方、質素な暮らしの中で四男一女を育てたそうです。

子ども達が通った「小樽量徳小学校」…百年以上の歴史を刻んだその小学校でさえ

今は残されておりません。

現存する小樽オルゴール堂こそ、友人と始めた「共成」の社屋そのものです。

物資を保管する為の「稲積倉庫」も経営、小樽を拠点とする豊次郎氏は、

軽川稲積農場を運営するに当たり、信頼できる管理人を置くことを考え、

姪にあたる稲積たつに白羽の矢が当たったのです。

明治 23 年生まれの私の祖母稲積たつは、富山県高岡市の造り酒屋の四女として生まれ
当時の高岡高等女学校を卒業しています。

御嬢さん育ちでしたから、生け花の家元の免許を大切にしていました。

(現在も富山県氷見市丸の内で「稲積酒店」は商売をしています。)

富山や岐阜の寺に嫁いだ姉達と別れ、明治 11 年生まれの夫と共に

明治 41 年 4 月、富山県新湊（現在は射水市に合併）を出発。

2 週間の船旅は函館経由で小樽港に到着。

鉄路で軽川の停車場まで辿り着いた時、手稲山の姿に故郷の立山連峰を重ねながら
二度と故郷に帰れないという覚悟を新たにされたと思われます。

私の祖父龍田安二郎は、富山県礪波市にて役場の助役の二男として出生。

稲積の姓を名乗ることで軽川稲積農場の管理人として生計を立てる術を得たのでしょう。

同時代の有名な方達を挙げれば、

有島武郎さんが明治 11 年、石川啄木さんが明治 19 年、宮沢賢二さんが明治 29 年生まれということで、
時代背景も想像できるかもしれませんね。

農場周辺は夜になると真っ暗闇だったそうです。「寂しいからどうか出かけないで…」と言っても

祖父は、毎夜故郷から携えてきた尺八を手に軽川の繁華街に出かけて行ったそうです。

三男八女を育て上げる中で、一時期現在の中央区に転居し、和裁の教室と仕立てをして

やりくりをしていたと聞いていますが、不在地主になると大変だと進言してくれる人がいて

タイミングよく戻れたようです。

農場の南側には 10 本ほどの梅の木、数本の梨の木、林檎、さくらんぼ、栗、グースベリー、葡萄棚などがあり、
周りには豆類などを植えていました。果樹は一部当時のままです。

小規模ながら澱粉工場と鶏小屋もあり、鮮魚や小間物の行商さんも往来していた為、祖母は奥さんと呼ばれて
家から出ることはほとんどなかったそうです。

時代は流れ、いつの間にか「軽川」という地名も「富丘」になり、

「軽川印象派」と名付けてもいいくらいの富樫正雄画伯の描いた風景も見当たらなくなりました。

富樫画伯の描いた油彩画の中に「軽川」時代を髣髴させる貴重なものが幾つかあります。

懐かしい人々と過ごしたかけがえのない時間が、今も私の中で脈々と息づいています。

懐かしい故郷である「軽川」のイメージを今後も何かの形で守り育てていきたいとの思いを新たにしています。

このたびは、このような機会を与えていただき、心から感謝いたしております。

本当にありがとうございました。

何より「軽川」を愛してやまなかった父が喜んでいる姿が目に見えます。

2014 年 11 月 25 日

澤口 由美子（筆名 稲積 由美子） 感謝をこめて

大したもんだな！北海道！！

前田 永井道充氏

我が郷土「北海道が日本一」のものを集めてみました。

1) 広さ大きさ日本一

北方領土を含む面積 23.73 km² 大きな島「択捉島」845.7 km² 無人島「渡島大島」9.7 km² 人造湖「朱鞠内湖」23.73 km² 国立公園「大雪山国立公園」2.277 km² 湿原「釧路湿原」182.9 km² 汽水湖「サロマ湖」152 km² カルデラ「屈斜路湖」南北約 20 km² 東西約 29 km² 町「足寄町」1.408 km² 耕地面積 11.630 km² 牧場「ナイタイ高原」1.7 km² 国立大学「北海道大学」札幌駅北側キャンパスだけで 175ha 私立大学「酪農学園大学」132ha 公立高校「北海道標茶高校」225ha 都市公園面積一人当たり 26.7ha

2) 長さ日本一

直線道路「美唄～滝川」29.2 km 直線鉄道「白老～沼ノ端」28.7 km 駅間距離「新夕張～占冠」34.2 km ローカル線総延長 1.116.4 km 列車区間「大阪～札幌」1.495.7 km 定期普通列車「滝川～釧路」308.4 km 自治体「北見市」東西 110 km 農業用水路「南幌～赤平」80 km サロマ湖 110 km ウルト라마ラソン（日本陸連の公認コース）砂洲「野付半島」28 km

3) 生産量、生産額日本一

農産物～小麦 67%。大豆 27%。小豆 90%。甜菜 100%。ばれいしょ 77% ブロッコリー 15%。人参 28% ダイコン 11%。玉ねぎ 55%。カボチャ 48%。スイートコーン 46%。アスパラガス 18%。そば 44%。いんげん 94%。ヤマノイモ 34%。・・・

水産物～さんま 53%。さけ類 87%。たら類 90%。ほっけ 97%。カレイ類 42%。イカ 33% ホタテ 73%。カニ 21%。たこ 49%。エビ 17%。・・・ (%は全国生産に対する割合)

畜産では乳用牛 806.800 頭・肉用牛 516.000 頭・めん羊 11.226 頭・軽種馬 7.107 頭で飼育頭数ともに日本一、当然牛乳や枝肉の生産も日本一、ということで食料の自給率は 191%となっている。

「北海道の魅力は？」と他府県の人に尋ねると、「自然が多い」「景色がいい」「食べ物が美味しい」「梅雨がない」「夏涼しい」「混雑や渋滞が少ない」という。わが北海道は魅力たっぷりの土地なのである。

北海道が日本一のもは多種多様で、まだまだあるが以下省略します。



分科会報告

★ 文芸サークル

11月26日の例会は、「『風立ちぬ』を語る」というテーマで話し合いました。

野村相談役は、次のような切り口で話をはじめられました。

宮崎駿監督は零戦を設計した堀越二郎の伝記を読んで堀越二郎の生涯に感動し、それと堀辰雄の小説の世界の“美”をイメージしながら、そこに宮崎駿監督の自分史を重ね合わせ、「どんなにつらいことがあっても生き抜いて生きなさい」と言うメッセージを、このアニメ作品を通して少年たちに伝えようとしたものである。

朝日新聞の

- ・ 作りたい物作って 美しくも呪われる 矛盾した敗戦感情
- ・ だれも善悪問えず 自分の責任範囲で 精いっぱい生きる

という見出しは、この三人の底に共通に流れているテーマを、的確に表現している。……

1時間を超える大変興味深い話を聞かせていただきました。その提言のお蔭でしょう、その後のフリートークでは、途切れることなく話題が飛び出し、気づいたときには退室しなければならない時間になっていました。実に楽しい有意義な研修会でした。

★ 開拓史研究部

今月24日の例会は、菅原会員の発表予定でしたが忘年会のため延期します。2015年2月も映画鑑賞会を予定していますので、次の例会は4月になります。

会員の広場

「花族会議」と「コスモス・ロード」と「手稲石」のお話

前田 沖田紘昭

本日はこの席をお借りして「花族会議」の活動と、その会に降って湧いた最新の話についてお話します。手稲山麓の住宅街と接する一番高いところに稲雲高校があります。昭和59年に開校してまもなく「花族会議」が発足しました。出来たばかりの学校は山肌を削ったガレキの上に構築されたので、その通学路も当然むき出しの岩石、石ころの脇を通るものでした。これでは生徒がかわいそうだということで道路の脇にコスモスを植え「コスモス・ロード」を作ることになりました。メンバーは高校の先生やPTAとその友人関係など15人くらいで、毎年お互いに持ち寄った不要品のバザーを喫茶店hanaで開催し、必要資金をつくりながら全てボランティアで続けてきました。当初は剣先スコップも刺さらない石だらけの花壇でしたので、小型のホイールローダーを入れて土を起こしてもらいます。その後、男性陣が畝を掘って女性陣が種をまいていくという作業です。夏場の草刈や、乾季の水やり、秋の種取り、などをしながらめんどろをみてきました。もう25年以上になり、今では石もほとんど混じらず、種まきはずっと楽になりました。夏から秋にかけて満開のコスモスが風にゆれる様はとてもロマンチックで、今では学生だけでなく恋人や近所の人々の散策路としての良い目的地になり、訪れる人々の目も心も癒してくれているようです。

そのメンバーの一人から今年春に、いきなり会に緊急提案が出されました。

北海道新幹線の「手稲トンネル」が手稲山の下を通る、当然手稲鉾山の下をくぐる。熱水鉾床が走るその岩石を頂いて町おこしに使おう、というものでした。そのメンバーは昨年手稲郷土史研究会に入り、その会で色々郷土手稲の歴史の話聞き、手稲鉾山を見学する中から、いきなり覚醒しこの思いつきに至ったというわけです。特に深く青く輝く「手稲

次回の予定

次回(1月14日)は、土谷聖史氏の「平和の滝とその周辺」および三国勲氏の「タンネウエンシリ手稲山紀行」の研究発表を予定しております。会場は、視聴覚室です。

石」に強く魅かれ、北大総合博物館、山の手博物館にも足を運び実物を見ました。そして宮崎駿の傑作アニメ「天空の城ラピュタ」を空中に浮かせる不思議な力を持った青い宝石にイメージを重ねていました。宮崎監督にインスピレーションを与えた「冒険王」掲載の大魔王に出てくる飛行石の話は、彼も小学生の頃読んだ記憶がありました。以前から手稲で自慢できるものは何かないかと探していたそのメンバーは、すぐこれに飛びつきました。手稲石をはじめ鉾山に残っている数多くの火成岩こそが手稲と手稲山の価値を何倍にも高めてくれる。希少価値は計りしれない、上手に活用できないかと。その後この秋には一ノ宮さんにご苦勞をお願いし、鉾石研究者や宇宙物理学者などを交えてメンバーで手稲鉾山の見学会を実施しました。ある人は手稲神社の禰宜さんにも話して、石が上手に加工できるなら「お守り」として面白い、という感触をもらっています。しかし本当に実現するためには、会はいかにも力不足、受け皿としてオール手稲区民の参加出来る「ふるさと手稲の会」を作るべきだ、などの意見も出ています。掘削岩の活用法方法は全く白紙でもあり、もし郷土史研究会や他の団体に良いアイデアがあれば、力を合わせて更に実現に近づけるのではないかと、ひそかに同志が増えることを念じているとのこと。

手稲研クイズ

札幌市は先月27日、2026年の冬季オリンピック召致を表明しましたが、前回の冬季オリンピック(1972年)の時、手稲山で行われた種目は何があったのでしょうか。

完